石巻専修大学　数理・データサイエンス・AI
教育プログラム（基礎リテラシーレベル）

自己点検・評価報告書

2024（令和6）年度

石巻専修大学　数理・データサイエンス・AI

教育プログラム推進専門部会

社会知性の開発をめざす
石巻専修大学

1 自己点検・評価の実施体制

石巻専修大学では、令和６年度以降入学者を対象として、これまで石巻専修大学で行ってきた情報教育を含めた初年次教育を拡張させ、Society5.0、AI 時代といったデータ駆動型社会において、機械学習やAI技術を活用できる人材の育成を目的に、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（基礎リテラシーレベル）（以下、「データサイエンス教育プログラム」という。）を新設した。同プログラムは令和６年度に以下の実施体制の下、自己点検・評価活動を実施した。

役　　割	委員会等
プログラムの運営責任者	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進専門部会
プログラムの改善・進化	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進専門部会
プログラムの自己点検・評価	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進専門部会

2 自己点検・評価の方法と点検・評価項目

自己点検・評価に際しては、「データサイエンス教育プログラム」の質向上の観点から、主に学生アンケートを用いて評価・点検を行った。

【学内からの視点】

（１）データサイエンス教育プログラムの学修成果について
（２）学生アンケート等を通じた学生の内容理解度について
（３）データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

3 自己点検・評価結果

【学内からの視点】

（１）データサイエンス教育プログラムの学修成果について

この度、本学では本プログラムにおける教育の質向上を図ることを目的に、令和７年１月 14 日（火）から１月 27 日（月）までの間、学生アンケート調査を実施し、学生の学習成果を測定した。アンケート対象者は、本プログラムを受講した令和６年度入学者とした。対象学生 261 名のうち、150 名が回答しており、回答率は 57%であった。学生の学修成果を測定するに際して、①【意欲】②【理解度】③【成長実感】④【推奨度】⑤【希望】の５つの観点から把握・測定をし、本専門部会にて数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の評価・改善を行っている。

（２）学生アンケート等を通じた学生の内容理解度について

上述の学生アンケート調査では、学生の【理解度】を確認するために、以下の設問を設定した。設問 3：「データ・AI によって、社会および日常生活が大きく変化している

ことを理解できた。」設問 4 :「『数理・データサイエンス・AI』が、今後の社会における『読み・書き・そろばん』に相当することを理解できた。」設問 5 :「今の AI で出来ることと、出来ないことを理解できた。」設問 6 :「AI を活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。」設問 7 :「データリテラシーを向上できた。」設問 8 :「個人情報保護法やＥＵ一般データ保護規則（ＧＤＰＲ）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。」設問 9 :「データ・AI を利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。」これらのうち、設問 4 と設問 8 を除くすべての設問で、肯定回答率が 80%を超える結果となった。

設問 4 については、肯定回答率が 71%となった。「読み・書き・そろばん」という表現が学生にとって聞きなれず、古い印象を与える可能性があることから、次年度からはアンケートの表現を検討する必要があると考えられる。

一方、肯定回答率が 69%に沈んだ設問 8 については、新入生には理解が難しい授業内容であることが判明した。この点については、次年度以降の課題であると認識している。

学生の【推奨度】を確認するために設定した設問 11「この数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」については、肯定回答率が 59%となり、本プログラムを高く評価していることが確認された。

設問 13 では、本プログラムにおける学生の評価を確認することを企図して、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。」を設定した。任意項目であったものの、25 名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用して共起キーワードを分析した結果、「知る」「学ぶ・学べる」「できる」といった学生の成長実感が、AI やデータを含む多様なキーワードと結びついていることが看取された。この学生の成長実感は、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」として、直接的ないしは間接的に証明しているものと考えられる。

なお、学生の【意欲】を確認するために設定した設問 2「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに意欲的に参加することができた。」については、肯定回答率の割合が 91%となり、9 割近くの学生が本プログラムに意欲的に参加していたことが確認された。

最後に設問 14 で「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。」を設定した。任意項目であったものの、4 名の有効回答数を得ることができた。学生からフィードバックされた回答は一部の学生からの声ではあるものの、本プログラムの授業内容に対して「最新の内容」や「社会に出て使う」といったキーワードが抽出されたため、今後はより新しく、身近な内容を取り込んだ授業内容に改善していく必要があると考えられる。

（３）データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進専門部会において、全学的な観点から数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の実施状況についての確認を継続的に行っている。本委員会では令和６年度実績に基づき、令和７年度の履修者数・履修率の向上に向けた計画を立案している。主に必修科目として設定されていない学科（人間教育学科）において、引き続き、高学年での履修を促すことを予定している。

以　上